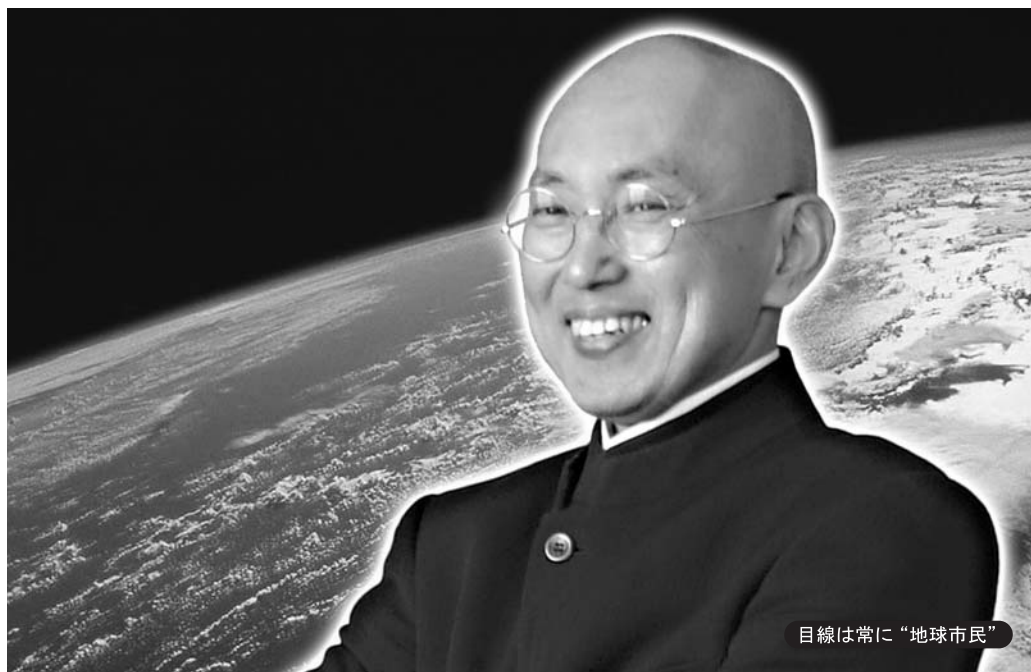


## NETWORK VOL.131

## TERRA



## 古賀武夫を悼む

志ネットワーク代表  
元、地球市民の会かながわ会長 上甲 晃

「古賀さん、早過ぎる。逝くのが早過ぎるよ」。通夜、葬儀のいずれにも参列がかなわなかった私は、予定をやり繰りして、とにかく古賀さんの家に駆けつけた。祭壇の遺影を見ながら、私は、どれほどの時間、「早過ぎる」とつぶやき続けたことだろう。

遺影の写真が、一ヵ月前に撮ったものだ聞いて、私は仰天すると共に、古賀武夫が常人ではなかったことを改めて思い知った。ガンを患っていた人とは思えない凛々しい姿を見て、古賀武夫に惚れ直した。亡くなる一ヵ月前と言えば、たいていは、全身やつれ果てているものだ。まして並ではない手術を何度も受けたと聞いていた。だから、「あの古賀武夫が」と思うほど、やせこけて、目もすっかりくぼんでしまっていたのではないかと想像してきた。しかし、遺影の古賀武夫は、背筋をしっかりと立て、目に力を込め、少しばかり胸を張っているように見えた。“日本男児ここにあり”と。見事な遺影に、ひたすら脱帽した。

古賀武夫と初めて会ったのは、私が松下政経塾に勤務していたころだ。その晩、酒の勢いもあって、辛口で、松下政経塾の批判を繰り返していた。私も、若かったのだろう。もちろん、こちらも酔っていたこともあり、辛口の批判に対して、決してひるまなかった気がする。それが結果的には、二人を結びつけたようだ。ある時、「神奈川にも、地球市民の会を立ち上げてくれないか」ともちかけられた。『条件』では決して動かない私も、『志』には弱い。結果的には、<かながわ地球市民の会>を立ち上げて、それ以来、古賀さんとは“同志”になったのである。

溢れる才能、たくましい行動力、そして愛に満ちた生き方。私は、人間としての魅力に溢れた古賀武夫と共に生きた日々を、自らの人生の宝としたい。古賀武夫は、志に生き抜いた男である。古賀武夫が灯した火が、今なおまぶしい。古賀武夫の掲げた火を、消してはならない。

古賀武夫の命を惜しむことは、もう、やめよう。人は必ずいつかは死ぬのだから遺された者達が惜しまなければならぬのは、古賀武夫の掲げた理想、志の火である。遺された者達には、古賀武夫の灯した火をさらに煌々と、さらに大きく、さらに力強く、燃え盛らせる責任がある。

松下幸之助は、私に教えた。「本当に僕の志が正しければ、必ずその志をつないでくれる人が現れる」。“故人の形を追うな。故人の求めたるを求めよ”。それこそが、古賀武夫の命を永遠に生かし続ける、唯一の道なのである。少なくとも、私は、それを肝に銘じて、生きる。

# 古賀武夫永久名誉会長のあゆみ

古賀前会長の足跡を辿る。  
当会を大きく導いていただけた古賀前会長と地球市民の会の歩みを改めて辿ってみたいと思います。

## ◆地球市民の会以前◆

- 五〇年 三月二八日佐賀市に生まれる。  
※一人兄弟の七番目の子。
- 六八年 佐賀西高校卒業（陸上部主将）
- 七三年 東京外国語大学仏語科卒業（空手部主将）
- 七四年 フランス映画「Les Blanches s'en vont en Guerre」邦題「クレイジーボーイズ」で初出演
- 七五年 フランス・ナンテシオン大学留学（哲学）  
佐賀県立佐賀西高校英語講師
- 七六年 佐賀フランス研究会 設立 会長
- 七八年 佐賀県立東松浦高校英語教師  
カナダ・ウインザー大学留学（比較思想）
- 七九年 カナダ・マクマスタ大学留学（比較思想）
- 八〇年 佐賀日仏文化会館・古賀英語塾手道場開設、結婚

## ◆地球市民の会以後◆

- 八三年 七月「地球市民の会」を設立  
事務局長・副会長就任
- 八六年 「小さな地球計画」開始、
- 八七年 「地球会議」「日タイ協力事業」開始
- 八八年 「かちがらす計画」開始
- 九〇年 「地球共感シンポジウム90」・「地球隊」開始  
「地球市民奨学金」・「タイの奨学金」開始  
タイ・ワットサーキヤオ孤児院支援開始
- 九一年 「愛媛地球市民の会」設立  
「日韓青年経済人会議」開催  
タイ・八祐徳バス三台寄贈、

- 九二年 「タイ・ワットサーキヤオ孤児院汚水処理施設」女子寮建設  
「地球こどもサミット」開催  
「地球市民の会熊本」設立
- 九三年 「日米地域交流シンポジウム」  
「テラトピア計画」(タイ・メーター村)開始  
「人間の持つべき文明」シンポジウム、  
「テラトピア」発表
- 九四年 「嬉野地球市民の会」・「北海道地球市民の会」  
「地球市民の会東京」設立  
タイ・メーター村に小学校校舎、寄宿舎建設  
「アジア太平洋協力会議」・「九州国際化&地域づくりシンポジウム」・「タイ里親ツアー」開始 会長就任
- 九五年 「地球市民の会心くしま」設立、「阪神大震災ボランティア派遣」、  
「スリランカ協力事業」開始、  
タイ・ワットサーキヤオ孤児院水害被害支援  
タイ・メーター学校へ車輛購入、  
映画「人間の翼」制作
- 九六年 「鳥栖地球市民の会」設立、「自治大臣賞」受賞
- 九七年 「地球市民セミナー」開始
- 九八年 「地球市民の会きざし」設立
- 九九年 「地球市民の会福岡」・「北九州地球市民の会」設立  
「日韓青年フォーラム」、  
肝臓がん発病手術入院
- 〇〇年 「スリランカ小規模水力発電所」建設、  
「外務大臣賞」受賞
- 〇一年 「アメリカ同時多発テロ事件を考えたシンポジウム」開催
- 〇二年 「NPO法人格取得」、「地球平和道場」竣工

- 〇三年 「地球市民文化祭」開催  
「ミヤンマープロジェクト」始動  
「ミヤンマー高校生 日本招聘」、  
「ミヤンマー」森太郎寮 建設 肝臓がん再発

- 〇四年 「ミヤンマー カックン小規模水力発電所」建設  
「JICA 草の根技術協力パートナー型・ミヤンマー 連邦循環型共生社会の創造事業」受託  
「オーストラリアホーム・ステイプラー」実施  
絵本 「いのちのまつり」・「マチス・ブラス」監督、  
「夢の学校」(仮称)準備会 代表就任

- 〇五年 「スリランカ津波支援」、「モンゴル」へ4WD車  
輸贈、「ミヤンマー 森林復元事業」開始、  
「夢の学校をつくる会」設立

- 〇六年 「地球市民の会神戸有頂天倶楽部」京都地球市民の会設立  
「ミヤンマー」ナワンカ研修センター」完成、  
「テラトピア」シーム構想」発動

- 〇七年 「新潟中越沖地震緊急支援」、  
「タイ」高校生招聘事業 実施、  
肝臓がん悪化神戸大学病院緊急入院

- 〇八年 三月一七日永眠 享年 五七歳

## ◆古賀前会長著作◆

- 「ツイアビー 南海の酋長を尋ねて」
- 「志と品格 ― 光り輝いて生きる」
- 「敬天愛人 ― 隅より世を照らさん」
- 「一所懸命恩返し」
- 「生かし生かされ生かされて生きる」

※古賀前会長は生前「ブックレット」第一集のツイアビー 南海の酋長を尋ねてに、まごか記載されたいとおっしゃっていました。現在PDFデータとしてツイアビー 南海の酋長を尋ねてはありますので、ご利用の方は事務局(大野まで)へご連絡なくお申し付けください。

## ◆古賀前会長の前口上◆

以来 自己追求途上人。酒・涙・笑い・感動をエネルギー源に素晴らしい人との出会いを求めて、日本をそして世界をさす。みんなが強く優しく、豊かになるお手伝いをさせていただきます。

## ◆古賀前会長の信条◆

- 人間のち・自然・宇宙
- 聖人に「己なく己なきを所なし。天地と我は同根、万物と我は一体」  
(澤木興道)
- 人間本来無一物・自然・本能  
堂々たる田舎人
- 文明  
「文明とは、道の普く行はるるを賞賞する言にして、宮室の荘嚴、衣服の美麗、外觀の浮華を言ふにはあらず。」  
(西郷南州遺訓)

## ● 運動・実践活動

- 「ありがとう」が溢れます(感謝報恩)
- 明るく楽しく元気よく(笑いと涙)
- つよくやさしくやさしく(心)
- 夢 情熱 感動
- 「一に体力、二に気力、三に知識とテクニック、それにもまして大切なのは優し心」
- 観念論より実践(走りながら考える)
- 人事を尽くして天命に従う  
(知足安分・分相応・能力の範囲内で無理せず)
- 気合い・智慧・持続力(運動推進の3要素)
- 酒(入を善き込んで行く鍵)直接会いにくく飲む

如何でしょうか、古賀前会長のすべてを辿ることは難しいですが、なんとなく身近に感じられるようになったのではないのでしょうか。編集事務局

## 古賀前会長は、

第7回通常総会に  
おきまして

永久名誉会長に推挙され承認されました。





## 「散る桜 残る桜も 散る桜」

駆け足の様に走り来て、駆け足の様に走り去っていった古賀武夫、享年五十七歳。その散り際は、あまりにも「みごと」の一語に尽きる。

彼はよく「佐藤さん、人間は何年生きるかではなく、生きていく間に、どれだけの事が出来るかだと思おう」と語っていた。

それは、とりもおさず、生きていく間に「どれだけの感動があるか？」につながって来る。

「感動なくして何の人生ぞ！」これは彼の持論であった。

この感動こそが、彼がよく泣き、よく笑う状況をつくったのだと思う。すなわち、彼は自分の召されていく時が、霊的レベルにおいて、すでに分かっていたのだろう。通常の人の二倍・三倍もの内容の濃い人生だったと思う。

「やってみなきゃ分からん」を口ぐせに常に前に進む。プレーキの故障した車の様でもあった。彼がアクセルを踏むと仲間スタッフ皆がブレーキ役という時もあった事を記憶している。

二十年前、彼と初めて逢った時、“九州には、何とす”い男がおるもんだ”と、ビックリさせられたのも、つい先日のように思える。話す声は大きく。また、大きな声でよく笑う。空手道場で、生徒に教えている時の彼は常に他を寄せつけないオーラを放っていた。

二人きりになり話す時、私は何度か彼に言った事がある。「古賀さん、貴方は負ける訓練が必要だよ。負けを認める勇気も強さだと思おうよ。」と…。それから何年か後、二人で飲んだ時、「佐藤さん、実は俺、気が弱い男なんだよ。それが為、負けることが嫌いで、それに打ち勝つために空手を始め、以来、前へ前

へと自分を進めている様な気がする。」と。

彼の負けん気とやさしさは、ここから来ていると感じられた。私利・私欲のない彼の行動は、何びと(人)をも魅了した。特に頭の回転の速さは群を抜いている。何人分もの働きを一人でこなしてきた。

これは誰にでも簡単にマネの出来るものではない。古賀武夫だから成し得た事であろう。

残された私達は、今、これを引き継がなければならぬ。

悲しみではあるが、現実をふまえて私達は立ち上がる時がきた。古賀武夫が一人で一〇〇歩歩いたのであれば、私達は一〇〇人の一歩で進もうではありませんか。

それが、残された私達の、古賀武夫に対するせめてもの二供養と思えます。

会長 佐藤昭二



古賀永久名誉会長

佐藤新会長

## 「私の覚悟」

「日本地図を逆さまにして見てんしゃい……チガッタ世界が見ゆつよ！」  
「ひっと出る。ひっと出るとみえてくる。いろんなモノがみえてくる。壁ば越えんば！」

「刻一刻の連続、それが歴史。時代を自分が創っていく気概で、今を生きる！」  
「正しいと思うなら、たとえ千人・万人が反対でも堂々と貫かんば！」

「田舎モンと自分ば卑下すつぎいかん都会も地域のひとつ、みんないっしょ。」  
「小山の大將じやいかん。もつとおおきゆう考えんば！」

「五十年前、百年先、二百年先ばみらんば！」

「とにかく楽しくゆうななきい、いかん会議も、もつと楽しくゆうせんば、笑わんば！」

「気合、元氣、そいが一番！」  
「分相応にせんば。そいばつてん分を磨かんば！」

「へそと宇宙は、ぶつ続き！」  
「つよくやさしく、やさしくつよく」  
「まあーよかけん飲もう！ 飲んでから……」

「心が大いに震える「元氣の出る言葉」、「意氣に感じる言葉」、「勇氣が湧いてくる言葉」……いつでも、どこでも、誰にでも心にたっぷり榮養を与えてくれる、そんな真心とジョークのシャワーをふんだんに浴びせ、すべてに「生き方」を示してくれた古賀先生。

私は、「古賀先生は、おてんとうさまだ。」と思っていました。

しかし、おてんとうさまの古賀先生は、今、いない。

この世に太陽がなければ、いのちある全てのものが滅びます。

ただ、今、生きています。  
ならば、「古賀先生は、お月さまになったのでしょうか？」

気持ち穏やかになれば、心の水面が平らとなり、古賀先生の教えがどこからか聞こえてくるようです。まぢかに古賀先生がみえるかんじもします。

まさに、お月さまが水面にきれいに光り輝いて写っているようです。

しかし、心乱れると、心の水面は激しく荒波となり、きれいなお月さまは見えなくなりまします。まだまだ未熟さ、私の強さが飛び出す瞬間もよくあるのです。そんな時は、心の水面に古賀先生の姿は見れません。

私は、決して古賀先生にはなれません。しかし、古賀先生が求め続けられた「志」「靈性」「心の有様」には触れさせていた

だく機会にめぐまれました。  
ならば、しっかりと自分らしさをもって、古賀先生がテラ・ア・ピールで世界にメッセージを送られた理想郷「地球市民魂で万物が未永く繁榮し、平和な地球」づくりに、同志みなさまと力を合わせて前進していく覚悟であります。

理事長 山下雄司





## されど我が胸は熱く…

北海道地球市民の会会長 阿部 功

今朝も机の上の古賀会長の遺影が微笑みかけてくれている。

「阿部さん元気か？」と。

はるか宇宙の彼方へと旅立って行った事を今だに受け入れることが出来ずにあります。

十八年前、ボランティア活動に対し全く経験のない私に、国際協力の重要性と人間として人を思いやる心の大切さを身をもって教えていただいた偉大な方でした。出会いから十六年間、想像を絶する世界を目で見せ、肌で感じさせてくれ、自分では考えられない人生を歩ませて頂きました。

私は、この活動を通じばらしい財産が出来ました。活動地域の東南アジアや日本の夢・情熱・感動を共有する多くの同志を得たことです。お金で買うことの出来ない素晴らしい財産です。

私に点してくれた灯を消すことなく、いつの日か地球がひとつの大きな市民となる事が出来ることを念じつつ、残された時間をいかに生きるかを考えながら、後世に灯を受け渡していきたいと思います。

「されど我が胸は熱く、夢を追い続けるなり・・・」

昴（すばる）の一節を古賀会長と全国の同志に贈ります。

## 古賀武夫氏の思い出

地球市民みえの会会長 伊藤洋之

彼と初めて会ったのは、1992年の1月の17日。日本JCの京都会議の場に於いてであった。当時、私が国際協力委員会の委員長を拝命し委員会、講師を誰にしたら良いか、栗田明先輩に相談したところ、古賀武夫氏を紹介されたのであった。

「伊藤君、古賀武夫がタイで一声かければ、1000人が動く。凄いことや。本物の国際交流をやっている人だ。ちょっとユニークではあるが。」

当日、厳寒の京都に作務衣と素足に下駄という姿で登場して委員会メンバー全員の度肝を抜き、講演ではJCを馬鹿呼ばわりの言いたい放題。懇親会、二次会の酒席でもアルコールを浴びるように飲んでグングンの大トラであった。何とユニークな人かと本当にあきれ、感心して、最後は魅了された。まさに全員が魅了され、その後、深い付き合いになったメンバーが何人も出た。

あれから16年。古賀氏とはタイ、佐賀、横浜、東京、熊本、福岡と、あちらこちらで会った。いつでもどこでも、「古賀武夫」であった。前向きで何事にもプラス発想の人であった。余りにも早すぎる別れが未だに信じられない。



## 「夢、情熱、感動」

(特活)地球市民ACTかながわ/TPAK代表 近田真知子

私が、古賀武夫と始めて遭遇したのは、1991年1月日本青年会議所京都会議の席上でした。古賀さんは、この会議の分科会にスピーカーとして参加していました。会議の後、お茶屋さんで懇親会を開いていると、ふすまをいきなり開けて古賀さんが乱入してきました。凍てつくような京都の冬に作務衣、裸足にぞうり姿の古賀さんは、居並ぶJC歴々を前に、「タイには食べるものにも困り、進学すらままならない子ども達がたくさんいることをご存知ですか」とタイの状況を滔々と述べられました。さらに「このような贅沢な会席を持つような皆さんは、子ども達のために何ができますか」と続けられ、圧倒された私たちは、誰言う事もなく、一人一万円ずつを出し合い、これを古賀さんにお預けしたのです。帰浜して間もなく、地球市民の会に会員登録された旨の知らせが届き、始めて活動を知りました。これが私の人生のターニングポイントであり、又列席していたJCの皆がこの日を境に、国際協力を目を開き、そして古賀さんを敬愛する日々が始まりました。その年の内に無理やり(笑)タイに連れて行かれ、ワットサケオ孤児院、メーター村学校、チェンライの山々をジャナロンさんと共に歩き1993年に私たちは地球市民の会かながわを設立しました。

古賀さんのいつも笑いの嵐を呼びお話や、夢と情熱と感動でいっぱい  
の問いかけに、いつも心を動かされました。スタディーツアーでは、10年分笑い、10年分泣きました。古賀さんは、いつも私たちにとって、本当に「特別の人」でした。そしてこれからも、永遠に「特別の人」です…。



## 古賀武夫さんのご逝去を悼み

地球市民の会東京会長 有澤正典

古賀武夫氏のご逝去にあらためて哀悼の意を表します。

古賀さんに初めてお会いしたのは、平成6年経団連1%クラブが主催する講演会の講師として招かれており、地球市民の会がタイで実施している教育支援活動について話をお聞きました。当時、私は或る企業で社会貢献活動を推進するセクションに在席をしており、古賀さんの話に共感・感動、佐賀へ取材にお伺いし、以来ご厚誼を頂いて参りました。6年程前に「地球市民の会東京」の事務局と運営を託され、佐賀出身で在京の古賀さんの愛弟子諸君を中心に、東京としての活動について何度か会合を持って参りましたが、小生の至らなさから有名無実の状況が続いておりました。そんな状態でも古賀さんは、「焦らないでゆっくりとやって下さい」と自若泰然としておられました。そんな東京でしたが、昨年の暮れよりミャンマーの小プロジェクトに参加、つい先般終えることが出来ました。辛抱強く見守ってくれた古賀さんに、東京の活動が、漸く緒に付いたと報告をさせていただきます。

昨年の9月29・30日、「神戸いのちの祭り&全国連絡会」でお会いし、今年3月2日にホスピスに入るとメールを頂き、「桜も近いので、花見と一緒に」と返信したのが最後となってしまいました。

古賀さん、善く生きられました。しかし、余りにも早く逝かれました。これからは、貴方の考え、貴方が望んだ社会、貴方が実現しようとしたこと。その灯を、私なり噛み締め・想い、地球市民の会東京の活動に活かして参る所存です。

古賀さん、どうか安らかにお眠りください。

平成20年 6月



更には彼はいろいろな事業や活動をエネルギーに展開して行った。本業とした「古賀英語道場」、「和道流古賀空手道場」（彼にとっては「英語道」であり、また和道流空手は七段師範でもあった。

地球市民の会では「小さな地球計画」や「カチガラス計画」というホームステイ交流事業。また彼が本格的にアジア交流を始めたのが1987年からであった。その切っ掛けとなったのが、今は亡き同志「ジャンロン・メキンタラクラ」との出逢いによってである。彼は多くの同志をさそって（否、騙してか煙に巻いてカナ!？）随分とタイに通った。彼らに魅せられて、タイの田舎が持つノスタルジーや心の豊かさに惹かれて、「タイ病患者」続出だった。私とてその例外ではない。彼らのお陰で「アジア」に開眼したと云っても過言ではない。楽しく元気で感動的で懐かしく夢にあふれていた。記憶の中ではいつもみんなであつている。

彼は、その後もいろいろな事業を仕掛けては周囲を疾風怒涛の如き嵐に巻き込みつつもまた多くの感動を与えて行った。彼が目指したものは、「地球市民運動」である。

後で聴いたのだが彼は亡くなるひと月ほど前に相当きつかったであろうに自ら車を運転し写真館に赴き、まるで明治維新の頃の志士の如き装いで日本刀を構えて記念撮影(?)をしているのである。その表情は実に大らかで明るく、病のかけらなど微塵も感じさせないものであった。

私はこの話を聴いた時に、まさに「古賀武夫流の武士道」、「男の美学」であったに違いないと心から思えた。そして彼は愛する聡明な夫人と心優しき娘・息子たちに見送られながらその最期の時を迎えて逝ってしまった。

この偉大なる現代の武士、古賀武夫にもう今生で出会うことは亡くなったのだが、また必ずやいずれかの人生で再会出来るものだと信じて止まない。

## 芸を磨いております！

北九州地球市民の会 会長 河野一郎

13年前、タイのワットサーキオ孤児院に古賀先生と同行する機会がありました。夜のミーティングの時、先生から「河野はどう思うか？」と聞かれ何も答えられなかったことを覚えています。

何も感じなかったのではなく、感じた事をどう表現したら良いのか言葉が見つかりませんでした。世界で起きている事をテレビや新聞で見ていて頭では分かっているつもりでも、目の前で起きていることはあまりにも生々しかったです。そんな世界に古賀先生は私を引っ張り込んでくれました。

佐賀のみならず全国に散らばっている会員の方達との出会いはいつも笑顔と感動であふれていました。そして、真ん中にはいつも先生がいました。先生に喜んでもらいたい、先生の笑顔が見たい。その一心でナメクジやタワシをしていたわけではありませんが、あの笑顔がもう見られないと思うと、塩を掛けられたナメクジのように溶けてしまいそうです。

しかし、先生から言われた「河野らしく生きろ」の言葉を胸に秘め、次回お会いするときは皆さんが腹の底から大笑い出来るような芸をご披露したいと思います。



◀前列右2人目が河野会長

笑う門には福来る!! どこに行っても両手に花



古賀前会長

上甲氏

近田代表



## 古賀武夫さんのご逝去を悼み

地球市民の会ぎふ 前会長 大野一明

悔しさと、悲しみを心の奥底にある一番大切なところに仕舞い込み、尊師古賀武夫先生に哀悼の意をもって数多い思い出の一端を語ります。

1992年冬、(社)日本青年会議所の委員会メンバーとして京都にいました。前日の深酒の余韻で睡魔と闘いながら基調講演を聴くことに……。睡眠時間にと期待しつつ着席。講師入場と共に、頭は丸坊主、作務衣、一見怖そうな講師、生まれれば今では聞き慣れた佐賀弁をそのままに迫力ある講演、その佐賀弁と迫力に魅せられ、寝ることも忘れ最後まで聞き入ってしまった、新米JCと講師という格も距離も遠い出来事、それが古賀先生との出会いでした。「とりええず名刺と一万円」という先生の台詞で地球市民の会に入会。そして15年、多くの事を先生から学び、師と仰ぎ生きて来ました。私の座右の銘「公に尽くし、私せず」は師から学んだ事、そして人生でただひとり私が命を預ける覚悟の出来た人。先生、もう一度共にタイに行くという約束を果たせなかった愚かな弟子をお許し下さい。しかし、今も、これからも先生の教えを学び続け、そして実践し伝えてまいります。

ありがとうございました。

## アジアの雄、九州の雄、古賀武夫を偲ぶ

(特活)コミネット協会理事長/地球市民の会副会長 山口久臣

アジアの雄、九州の雄であり、地球市民の会会長であった古賀武夫が他界してしまった。本当に淋しく、そして悲しい。私は長い事、尊敬と親しみの念を込めて先輩である彼のことを「アニキ」と呼ばせてもらった。

私が初めて古賀武夫と云う雄に出逢ったのは1985年の湯布院で、「日米青年交流会議」と云うイベントの席であった。その風貌からはとても想像出来ないほどのずば抜けた英語力、堪能なる仏語力、極めつけは坊主頭に空手の高段者、鋭い目つきで周囲を見回す様は何とも迫力があり圧倒された。彼はこの時すでに「地球市民の会」を立ち上げて3年目だった。全国的に国際交流が盛んになり始めていた頃の古賀武夫、35歳の夏のことである。

それから彼との付き合いが始まったのだが、とにかく灰汁(あく)が強い。強烈な個性。弁が立つ。おもしろい。人を飽きさせない話題の抱負さ。豪快さ。突出した行動力とリーダーシップ。人脈の広さ。酒大好き!! 等などとどれをとっても彼を表現するには枚挙に遑(いとま)がない。またよく笑い、よく人を笑わせ、ダジャレや毒舌を連発し、よくしゃべり、また感動してよく泣いた。喜怒哀楽が本当に豊かな男であった。彼が残した言葉の中で何よりも私が好きな言葉は、「感動なくして何が人生ゾ!!」である。

## 私の師匠、古賀武夫先生

地球市民の会福岡 会長 増田誠司

古賀先生、私はあの日文字通り、途方にくれてしまったのですよ。

いつの日にかは起こるであろうと理解していながらも、こんなにも早くにあの日が訪れようとは、認めることも自分自身に言い聞かせることも出来なかったのです。

やはり、途方に暮れたのです。

心の頼みにしていた先生が、突然居なくなってしまう事がこれほどの事とは、今になって事の重大さが身に沁みます。

師を失うとは、これほどに大きな事であったのですね。

古賀先生、先生の存在は私にはあまりにも大きかったのです。

もう15年程にもなるでしょうか。熊本は幣立の佐藤昭二さん(当会新会長)の平和道場で、たしか古賀先生とは吉田東州先生の兄弟弟子にあたる京都の武川先生と酒を飲みながら沢山の話をしていました。

その会話の中で、先生はこう仰いましたね。「増田君、年齢30を超える時に師と呼べる人間との出会いがないならば、それは不幸であるぞ。」

その時、私はたしか28歳であったと記憶しています。なぜなら、30歳まであと2年しかないと考えたことを今でも覚えているからです。

多くの言葉も頂きましたが、何よりその生き方で教えを頂きました。

古賀先生の生き方を通して、自分自身を考えてみるということが多々御座いました。

ここ数年は特に、命に対して真摯にそして懸命にお力を尽くしておられる姿は、われ等、後を追うものへ、どれ程の学びになったことでしょうか。斯くの如くありたいと、心から思いました。

言葉を超えて、その生き様で教えをくださった先生は、多くの方に素晴らしい影響を与えられました。

私自身を振り返りますと、申し訳なくて身が縮むおもいです。

それでも、古賀武夫先生の魂。そして、理念を活かし続けるのも弟子の役目と心得ております。多くの兄弟子達の後に続いて、私も及ばずながら、人の役に立ち、社会の役に立ち、地球市民の会の皆様の役に立てよう努力いたします。

私も、先生のように一生懸命に生きて、人生を過ごしましたなら是非、再会いたしましょう。

大好きな酒を飲みながら、又色々な話を聞かせてください。

先生がいらっしゃると思うと  
そっちもなんだか楽しそうですね。

ですが、まだそちらに行くわけには参りません。  
今のままでは、合わす顔がありませんので…

# 合掌。



## 古賀武夫先生と出会って

地球市民の会京都 会長 宮川尚子

今回、地球市民の会、事務局長の大野さんの紹介で筆を取らせていただきました。私は、一昨年に古賀武夫先生の勧めで「地球市民の会京都」を立ち上げることになりました。ここで、私が皆様に謝罪を申し上げたいのは、日々の雑多に追われてしまい、地球市民の会京都としての役割をちゃんと果たせていないということです。

そんな私でございますが、ここに古賀武夫先生との出会いについて追悼を込めて書かせていただきたいと思います。

京都出身の私が、古賀武夫先生とであったのは、ひょんな縁でした。そういえば、いままでたくさんの「ひょんな縁」によって生かされてきた気がします。

私は、仕事で陶芸をしていまして、それも「ひょんな縁」で佐賀県の山内町の草場一壽さんのところに弟子入りをしましたのは、5年前のことです。

その師匠である、草場先生の叔父さまにあたるのが、古賀武夫先生でした。最初に工房のスタッフの話の中で「古賀武夫さん」のお話を聞いたときは驚きました。語学も堪能で、武道も強くて、頭もきれる……。どんな方なのだろう、早くお会いしたいな、と思いました。

そしてその時は、すぐに訪れました。

第一印象で、驚いたのはとても小さな方だったこと。

これは、ご本人も気にされていたかもしれませんが、お会いするまでの伝説をきいていただけに非常に驚きました。そして、その直後になって大きなパワーを秘めてられる方なんだとおもいました。

古賀先生を取り巻く外側に、もう一つ皮膚みたいなものを感じました。とっても温かくて、大きな力でした。

その後たくさんの行事でお会いしました。工房の新築から、絵本「いのちのまつり」出版記念パーティの企画。それからの私にとって、とっても大きな思い出になった行事でした。

「世界平和」という、言葉だけでは非常に抽象的な事を、これほどに真摯にしている人々を、私ははじめて出会いました。そして心からすごいと思いました。思いやりということを知りました。そして、見えない人を見いやるというもっと高度なことを知りました。

そこには想像力と、クリエイティブな精神がありました。

二年後私は京都に帰ってから、陶芸の仕事をしながら生活をしています。その仕事の中でいつも気持ちの中にあるのが、「みんなが笑って生きられること」です。自分ができる事は限られていて、古賀先生のようなことは到底できないです。ただ、自分のつくる作品が少しでも周りをほっとさせたり、笑いをもたらすことができる。自分が投げる石が少しでもいい波紋を呼んで周りに伝わっていつてくれること、それをいつも意識しながら動いています。

それは、もちろん古賀武夫先生、師匠である草場一壽さん、そして温かい佐賀県からの大きなお土産です。

私はきっと一生「こうしたら古賀先生はよるこんでくれるかな」という風に考えると思います。そして、これからの人生の荒波の中を泳いでいく考え方の指針になってくださっていることは本当にこの上ない感謝です。

人類は種の繁栄のために、有限な命を手にいれました。このような私にも、少しでも、本の少しでも、古賀先生の教えを胸に生きられたら本当に嬉しく思います。古賀先生、本当にありがとうございました。





# 第7回通常総会報告



新会長の下、理事・事務局一体となつて精進してまいります。今後ともよろしくお願い致します。



平成20年5月24日(土)午後2時から佐賀市民会館第一会議室にて、特定非営利活動法人地球市民の会第7回通常総会を開催いたしました。

定刻により司会者、成尾雅貴(地球市民の会理事)が開会を宣言し、総会に先立ち、会場に掲げられた古賀前会長の遺影に対して、出席者全員で黙祷を捧げました。



その後、佐藤昭二会長代行が会を代表して挨拶を行い、続いて来賓の県知事古川康氏、衆議院議員の福岡資麿氏、大串博志氏、参議院議員川崎稔氏からのご挨拶を頂きました。そして、引き続き衆議院議員保利耕輔氏、今村雅弘氏、大串博志氏、原口一博氏、福岡資麿氏の祝電披露の後議事に移りました。

これからも、TPAは会員の皆さまに国際交流・協力を実感して頂くべく、様々なプログラムを展開してまいります。

今年度もご支援を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。(文責：落合)

## 審議事項

- 議題 1 議長選出の件
- 議題 2 議事録署名人の件
- 議題 3 総会成立の確認
- 第1号議案 新理事会体制に係る定款変更の件
- 議題 4 地球市民の会定款変更の件
- 議題 5 役員変更の件
- 議題 6 質疑応答
- 議題 7 承認
- 第2号議案 平成19年度活動報告および会計報告
- 議題 8 平成19年度の事業・活動報告に関する件
- 議題 9 平成19年度会計報告に関する件
- 議題 10 監査報告の件
- 議題 11 質疑応答
- 議題 12 承認
- 第3号議案 平成20年度の事業活動計画案および収支予算案
- 議題 13 平成20年度運動方針について
- 議題 14 事業計画案について
- 議題 15 収支予算案について
- 議題 16 質疑応答
- 議題 17 承認
- 議題 18 その他

※詳細は総会資料(別添)をご覧ください。

## 特定非営利活動法人地球市民の会 新役員

会長	佐藤 昭二	(株)地水社 代表取締役
副会長	藤 雅仁	東亜産業株式会社 代表取締役社長
副会長	多良 淳二	(株)佐賀銀行総務部管財グループ 主任調査役
副会長	山口 久臣	(有)野外教育研究所アイ・オー・イー 取締役 所長
副会長	草場 一壽	今心工房 陶彩画家
理事長	山下 雄司	(株)サカプリンティング 専務取締役
理事	藤 雅仁	東亜産業株式会社 代表取締役社長
理事	多良 淳二	(株)佐賀銀行総務部管財グループ 主任調査役
専務理事	大野 博之	特定非営利活動法人地球市民の会 事務局長
理事	稲富 正人	佐賀県新産業課 副課長
理事	植田 寛	元佐賀医科大学 検査技師長
理事	小松 敏正	小松商店 金属部 専務
理事	土井 敏弘	みどりや茶舗 代表
理事	成尾 雅貴	熊本県大阪事務所 次長
理事	西村 一守	(株)ニシムラ 営業部長
理事	西村 尚子	西村歯科医院
理事	平野 喜幸	れんげ国際ボランティア会
理事	深川 千幹	佐賀市立芙蓉中学校 教諭
理事	増田 誠司	(株)増屋 代表取締役
理事	八田 康博	(株)八田工作所 代表取締役
監事	田中 進	(株)佐賀電算センター 代表取締役会長
監事	宮地 敏昭	(株)びらざ 代表取締役社長

しっかり頼むバイ!!





「古賀武夫は、悲しいときには悲しいのが当たり前なだけで、それを**出来るだけ明るいほうに持っていこう**という気持ちがいつもあったんだと思いますね。出来るだけ明るく、前向きに考えるようにと。」

「私が3年半地球市民の会の事務局にいた時は、財政的にとても苦しかったんですね。…本当に大変だったんです。だから、毎月毎月大変な時期というのがやってきて、その度に古賀さんが“口を開けて、上を向いて歩いていたら、誰かが何か入れてくれるから!”って。そういうアバウトな面がある一方で、非常に緻密というか細かいところがある方でした。」

「古賀先生は、大きなお金にはとてもアバウトだったのは間違いないんですけど、小さいお金にはうるさかったですね。ある目的地へ向かうときに、電車の乗換えをいろいろ組み合わせてみたり、ここからここまではバスで行けるから…とか、そんなことばかり考えて3時間ですよ！（笑）…それで、頂いたお金は100円とかだったんですね。」



「昭和64年の1月に、私は古賀武夫と大ゲンカしました。彼と、私の信念とが合わなかった、というのが理由です。なぜか？というところ、天皇陛下が崩御されるかどうか？というときに、恋愛問題について日韓青年交流イベントでディスカッションなどしてある。…しかも、そんな内容が新聞記事となって、掲載されるのを許可しておいたとえ地方紙の事とは言え、崩御の記事の真横に掲載されておる！“天皇陛下が崩御されたその日に、恋愛問題について議論しておる！結婚観についてなぞ話をしておる!!”…そんなことを許した古賀武夫に『こん、馬鹿タレがあ!!』と、ど〜にも腹が立った次第です。

ですから、その日のうちに『もう二度と、あなたとは会いません』とファックスを送ったのです。すぐに。そうしたら、古賀武夫から電話がかかってきました。…これもまた、すぐにです（笑）

それで、翌日、あの汚い道場主の部屋でお会いして、きちんとお話をしたわけです。その時に・・・忘れもせんけれども、今まで私は彼が泣いたところを見たことが無かったわけですが、その時に、初めて彼が、古賀武夫が泣いたわけです。

“すまなかった。許してくれ”と。

そうなるも、私も涙モロイところがありますから、つい、こうホロっと来て…『もう二度と乱暴なことは言いません』と許してしまったわけです（笑）

いま考えてみると、あの時の彼の涙が、私の人生を狂わしてしまったのかな？などといった気もしていますね（笑）

「古賀さんが本当に目指していたのは**循環型社会の実現**といったことではないかと私は思っています。…私は古神道をずっと研究しているんですけど、そういった古神道の話には、通じるものがあつたのか、ものすごく刺激をうけていたようですね。ですから、古賀さんが何か疑問に思うことがあると、すぐ、私に電話を掛けてきていました。私が、『そう結論を急がなくても…』と言い掛けると、古賀さんは必ずといっていいほど『納得したいんだ』と話していました。

世に言われている循環型社会というものに、さらに精神性が必要。

**システムだけではない、あらゆるものの循環**といった視点が常にあったのだと思います。」

## 総会第2部 スペシャルシンポジウム 古賀会長からのメッセージ



パネリスト／桑原 允彦 鹿島市長  
佐藤 昭二 地球市民の会新会長  
中村 清美 ワールドスタディーセンター主宰  
土井美智子 夢の学校をつくる会副理事長

総会の終了後、午後3時から「スペシャルシンポジウム“古賀会長からのメッセージ”」と題して、上記のパネリストにお集まりいただき、貴重なお話を頂くことができました。…以下、紙面が許す限りパネリストの言葉を紙上再録させていただきます。どうぞお楽しみくださいませ。

「古賀武夫は、常に“感動無くして、何が人生だ！”とっていましたが、まさにそのとおりだなあと思いました。彼は男の中の男ではあるけれど、また同時にとても涙もろい男でもありました。。」

「自分が先頭に立って道を開いていく。閉じた扉を開いていく…という方でした。まず自分から自分自身の心の扉を開くということ、あんなふうに見えていながら、実は、とても努力されていた方だったということを感じています。」

「私と古賀さんの共通の場所、というのは“タイ”なんですけど、そのタイの話で盛り上がり過ぎて飲んでいたときに、テンションが上がればなしの古賀さんにさんざん話を聞かされたんですね（笑）お酒が入っているからでしょうが、ほんとにポロポロ泣き出すんですよ。私は『ああ、涙もろい人なんだなあ…』って思いながら、付き合いました。そして、朝夕近くになってようやく静まってきた頃に、今度は私が逆に聞いてみたんですね。『古賀さんは、本当は何がしたいんですか？』って。…そしたら古賀さんは真顔で『世界中のすべての人を救いたい』っておっしゃったことがありました。その時に思いましたね。“すごい…っていうか、ああ、この人はどこまで広い、大きい人なんだろう”って。」

「いま、キレイな空手道場（地球平和道場）が建っている場所。あそこにはペンペン草だけが生えていないような“広っぱ”と、長い間人が住んでいない“ボロ家”があっただけなんです。…武夫先生と洋子先生がそのペンペン草むしりから始めて、ペンキ塗りなんかもやって、日仏文化交流会館というものを始められたんですね。」

### ああいうご性格

「1980年5月7日。忘れもしません。ああいうご性格の方ですから。事務所を訪問した私に向かって“それで、あなたはいま何をやっているの？明日から何すつとね？”と聞かれますから“いいえ、特に…”とお答えしたんですね。そしたら、古賀先生すかさず“ああ、そいぎ、明日から来んね。時給320円ね。”」

「朝出勤すると、毎日、古賀先生はまた何かしら新しいアイデアを思いついていらっしやる。“今日は〇〇に会いに行く！”とか、“〇〇に手紙を書けん！”とか。もうほとんど思い付きで、すぐ行動!!でしたね（笑）」

「ご結婚されたばかりの頃の洋子さんも、夜中にいきなり…“洋子さん来んしゃい!”とか言って起こされていらっしやったワケです。本当に、毎日、古賀先生の新しいアイデアを形にしていくことを繰り返す、というか、混沌として秩序も何も無い状態でしたね。」

「屋根●●の思い出があります（笑）私と古賀先生が酔っ払うと、よく屋根の上から●●していましたね…女性には申し訳ないんですけど、あれ、ホント気持ちいいんです（笑）」

「ええっと、もうご存知の方も多いと思いますが、古賀さんのお父様が他界されたとき、ご遺体を火葬場へ運んだわけですね。親戚の皆さまが集っていらっしやる中、ご家族でね。

それで、火葬のスイッチが入れられて、火の音がゴー・・・と大きくなってきたときに、古賀さんが一言。“お父さん、火加減はいかがでしょうかあ？”って（笑）瑠江お母さんが亡くなるまでにも、「こん馬鹿たれが!」って古賀さんに向かって時々おっしゃってましたね。



よかけん。  
グズグズ言わんで  
早ようやりんしゃい!



# ミャンマーサイクロン緊急支援特集

## 皆さまの気持ちを、確実に届けています…

2008年5月2日、ミャンマーを突如襲ったサイクロン(名称NARGIS)。南部のデルタ地帯を中心に、死亡者7万人超、行方不明者数5万人超にも上る大惨事となり、その数は国連によると計32万人以上とも言われています。

世界中が注目している復旧状況ですが、1ヶ月経った今でもほとんど支援の行き届いていない地域があり、病気などによる二次災害が深刻になるのは時間の問題です。

そこで、地球市民の会がお世話になっているミャンマーのために「何かしよう!」と思い、行動に移したことは、至極当然の成り行きでした。5月7日から始まった募金活動の結果、日本全国の多くの方々からご協力いただき、街頭募金の際は佐賀県内の大学生たちも手伝ってくださいました。



6月16日時点での義援金総額 **2,272,066円** この場を借りて改めて皆様に御礼申し上げます。

### 義捐金は現地に届いてる? ~TPAの活動方法について~

被害の大きいデルタ地帯へは、外国人はなかなか入ることができません。そこで、私たちはヤンゴンに住むチーチーネイン氏を現地パートナーとし、現地駐在の当会スタッフが直接彼女や他団体と連携して活動するため、義捐金が確実に届く体制が整いました。この方法により、『**今どこで、何が最も必要とされているのか?**』という把握ができ、的確に義援金を被災地で活かすことができます。



道で生活する被災者と家(奥のビニールシート)  
手前左: TPAパートナーのチーチーネイン氏  
手前右: TPAスタッフ杉山

### どんな支援をしているの? ~TPAの活動内容について~

**支援地** モウ・ジュン市モウ・ジュン町 (Hmaw Gyun)  
イラワジデルタに位置し、テレビで何度も被害が報告されたボーガレイの隣町。ヤンゴンから船で10時間。人口は現在1万2千人(サイクロン前は1万5千人)。**陸路で行けないため援助が遅れ、国連でも状況がつかみ難い地域です。**

### 支援内容は?

- 生活支援として浄水器(右写真参照)、セラミック浄水器、簡易トイレセット、ビニールシート(トイレ用)などをはじめ、種粉40,000kg×5、バスケット×59農家分、ビニールシート(緊急シェルター用)×70軒分、蚊帳300枚、毛布300枚、インスタント麺360個、石鹸150本、洗濯洗剤500個、茶の葉漬物300人分など、…また教材支援としてノート2冊、鉛筆3本、消しゴム1個×170名分など。また、僧院修理代寄付等も積極的に行き、メンタル面での支援もおこなっていますが、現地ではまだ物資が不足しています…



簡易浄水器



モウ・ジュンの様子(5月29日現在)  
写真奥: ビニールシートで家を覆い雨風をしのいでいる。

※被災地では、ある程度緊急性がおさまった後も、社会的弱者(孤児、高齢者、妊婦、障害者、等)を中心に様々な困難や課題が残ります。TPAは草の根支援団体だからこそ、このような問題にも取り組み、ケアを継続していきたいと思えます。

### 被災地は今どんな様子なの? ~TPA現地スタッフの言葉~

「住民の中には家が根こそぎなくなってしまうと、再建する経済的余裕もなく路上で生活している人達もいる。道で調理している家族を見つけ、昼食を売っているのかと思いきや路上生活者であった。夜は寄付されたビニールシートを被って一家は寝ているようだ。家のあった場所は雨季のため泥沼状態。それでも私に向かって笑顔で、一緒にご飯を食べないかと誘う母子に涙が出てきた。」

**被災地は第二段階の支援を必要としています。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。**

### 義捐金振込先は?

義捐金振込先/ゆうちょ銀行 郵便振替口座/01790-3-26351  
加入者名/特定非営利活動法人 地球市民の会  
※通信欄に「ミャンマーサイクロン」と明記ください。

## 武ちゃんの思い

創始者古賀武夫(前理事長)が夢の学校によせる思い、そして、ともに歩んできた軌跡を追ってみました!

●私は英語道場、空手道場、地球市民の会を拠点に、人材育成、国際協力を国内外で実践してきた。学校はその集大成にしたい。今、心の荒廃や地球環境の悪化、紛争と戦争などの問題に直面している。つまり、このままでは日本が、そして世界が危ないということだ。国際性、人間性豊かな人材を育成するため、子どもや親、教師と一緒に学び、実践する場が必要だと思う。

【平成16年8月 佐賀新聞】

●子ども達には、まず笑うこと、感動することを教えたい。この力さえあれば、自分の能力を最大限に発揮できる。

●親は子どもを生んではじめて親になる。年上ということだけで大人の考えを押し付けるだけでは失敗してしまう。親も子どもも同い年、子どもと一緒に成長していくという謙虚さが必要だ。親が変わらなければ、子は変わらない。

【平成19年2月 教育シリーズ1シンポジウム】

●自分が変われば世界が変わります。「川上清めば、川下澄む」であります。まず大人から変わって参りましょう。

【平成19年9月 ネットワークテラ秋号】



## 夢の学校の歩み

- 2004年 2月 夢の学校(仮称)設立準備委員会設置
- 2004年10月 週末プログラム「土ようタマテ箱」開校
- 2005年 5月 特定非営利活動法人の認可を受け「夢の学校をつくる会」設立
- 2005年 8月 宿泊型自然体験・国際交流プログラム「夏タマテ箱」開始
- 2006年 4月 放課後プログラム「月～金タマテ箱」開校
- 2007年 2月 教育の原点を探り・考え・行動するきっかけをつくる場として「教育シリーズ」開始
- 2008年 4月 「土ようタマテ箱」「月～金タマテ箱」が統合、「夢の学校タマテ箱」に名称変更



## 夢を引き継ぐ...

顧問	古賀 洋子	(有)古賀英語道場 取締役
	原口 一博	衆議院 議員
	福岡 資麿	衆議院 議員
理事長	山下 博史	(株)サガプリンティング 代表取締役
副理事長	江打 正敏	佐賀ユネスコ協会 会長
	土井 美智子	フリーランス英語通訳
理事	草場 一壽	(有)今心工房 代表取締役
	草場 栄美	弘学館高校 家庭科講師
	古賀 大之	和道流空手道柔術拳法古賀道場 師範
	多良 淳二	(財)佐賀県地域づくりネットワーク協議会 会長
	満岡 聡	満岡内科消化器科医院 院長
	森永 勝馬	(有)フレンドリー 介護部長
	八田 康博	(有)八田工作所 代表取締役
	吉村 薫	夢の学校をつくる会 事務局長
監事	伊豆 哲也	TMO佐賀(佐賀商工会議所)タウンマネージャー
	岩崎 正	佐賀県 職員



宜しくお願ひします!!



去る5月10日の総会において山下博史氏を理事長に迎え、新体制のもと、新たな一歩を踏み出しました。古賀前理事長の遺志を引き継ぎ人間力豊かな人材の育成を目指し邁進してまいります!!



「新理事長あいさつ」

# 思いを受け継ぎ、育んでいく

理事長  
山下 博史



夢の学校をつくる会が発足する一年ぐらい前だったか、古賀武夫先生から「学校ば、つくろうと思うとっけん協力してよ！」と言われ、何気なく軽い気持ちで「いいですよ」と言っていたのが、つい先日のように思い出されます。

その後、準備会での協議が重ねられ、あっという間に会の発足にいたり、私もいつの間にか古賀先生のうまい誘導に乗り、理事という役割を担っていました。学校づくりという、これまでの人生で体験したことのない活動でしたので、大変不安を感じていましたが、古賀先生から「居てくるっただけでよか、金（寄付金）ば出してくるっただけでよか。」と軽い冗談を飛ばしてもらっていたので、少し肩の荷を軽くして取り組みました。

古賀先生は、多くの皆さんがご存知のように佐賀日仏文化会館、古賀英語道場、古賀空手道場、地球市民の会などを立ち上げられ、国内外での活動を通じて多くの人たちと交流をされ、アジアなど地域の発展支援や人づくり（教育）に尽力されて多くの人たちに共感や感銘を与えられていたので、この学校づくりは古賀先生にとって、これまでの活動のいわば集大成のような思いだろうと私は受け止めていました。

この夢の学校をつくる会の活動も理事長である古賀先生を中心として理事、おかしら、事務局スタッフ他関係者のご尽力により、土ようタマテ箱、月～金タマテ箱などのプログラムの充実に取り組んで頂き、着実な歩みと共に、今後の活動に期待が膨らむ中、会の柱である古賀武夫先生が去る3月17日、多くの人たちの回復の願いも叶わずご逝去なされました。ご家族を始め、多くの関係者が悲しみに包まれておりましたが、いつまでも悲しみに暮れるだけでなく、古賀先生が育まれた多くの活動（事業）を各々の活動に携わる者たちが支えていくことが大事だということで、夢の学校をつくる会でも創始者である古賀先生の学校づくりに寄せられた思いを育んでいこうということを、理事会、総会を通じて確認いたしました。

その席上で、古賀前理事長の後任として私が理事長に就任いたしました。当然、前理事長の足元にも及ばない能力ですので、土井副理事長、江打副理事長や理事・監事の皆さんと力を合わせて今後の活動に微力ながら取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力の程よろしくお願いします。



「私の考える教育とは？」④

## 古賀先生が亡くなって3カ月が経ちました。 大きな喪失感があります。

ことば おかしら

内田 信子

世界に通じる語学というパスポートと、日本人としての「根っこ」づくり。21世紀を生きる子どもたちには是非とも学んで欲しい事だと思っています。古賀先生の理念と私の思いは、この点で全く一致していました。

そこで、現在小学5年生の私の子どもが小学校に入った時に、古賀英語道場、空手道場に入門させていただきました。何より、古賀武夫という、佐賀の歴史に残るに違いない、傑物の薫陶を受けさせたいと願ったからです。

入門初日、願いは手ごたえとなっていました。「かかっておいで」そう促されて、遠慮も加減もしらず向かっていった子どもの拳は、軽々とかわされました。『本物だ！この人は凄い！』その瞬間から、子どもたちは、子犬がご主人様との力関係を知るが如く、恭順の意を示すようになりました。以来、わずか5年間でしたが、子どもたちが生身の古賀先生に触れ、叱られ、泣き、笑い、共に過ごせたことは、貴重な体験だったと思います。

私も、アナウンサーとしての経歴をもとに、教師や子ども達に発声や表現法などを教える機会があり、夢の学校の「おかしら」も務めています。教えるということの何と難しいこと！全身全霊でぶつかっても空をつかむようなところがあります。

最高の教育とは、教育する、その人の存在そのものが学びの対象であるのが理想だと思っています。しかし残念なことに、それを体験できる人は、そうそうはいません。教育という一点においても得がたい人を失ってしまったと、残念でなりません。理念や精神は受け継がれていくのですが、肉体と共に失われてしまうものの大きさを、命の重みを感じる今日、この頃です。



平成20年3月18日の葬儀の日、古賀先生が眠る棺の周りで「先生、ありがとう！」「先生、さようなら！」「先生、忘れんけんねー！」と大泣きする教え子達。この瞬間が夢であったらと、何度思ったことでしょうか。けれど、「夢と情熱と感動をもて」の教えはしっかりと彼ら、彼女らの中に深く生き続けると思っています。幸いに、古賀先生は多くの著作、記事を残しておられます。今後、少しずつ、何を思い、どう行動し、伝えたかったのかをご紹介します。参りたいと思います。

今回は、古賀先生が空手道を通し、心から互いに信頼し、導きあってこられた和道流空手道連盟 大塚和孝先生から洋子先生へのお便りと、ひたすら復活を願っていた教え子のひとり、北原寿美さんからの便りをご紹介します。

## 前略 古賀洋子先生

突然のお手紙で失礼致します。

3月21日最高師範が来仏の折、古賀先生の訃報に接し、驚きと悲しみのあまり、どの様にこの気持ちをお伝えしたらよいのか考えがまとまらず、取り急ぎこのような書状にてお悔やみを申し上げることをお許し下さい。

先生とは昨年の夏より何度となくメールにてやり取りをさせて頂いておりました。その際にご入院される事や、手術後の経過等を御知らせ頂いておりました。その内容はいつもの先生と変わらず、常に前向きで肯定的な言葉に満ちておりました。そして最高師範からも先生が日本刀を購入されて竹でそれを試されて刃を曲げてしまった事も聞いておりましたので、いつものむちゃくちゃな先生に戻られて良かったと私自身は勝手に解釈いたしておりました。

ですから最高師範から先生の訃音をお聞きした際もどうしても現実の事とは思えませんでした。パリの講習会より自宅に戻りインターネットに先生のお名前を入力検索し多くのサイトで先生の事が報じられているのを見ても未だ信じられない思いで一杯です。この思いは私だけでは無くインターネットでブログを開設している先生の生徒さんの記事を読んでも私と同じ気持ちの方が沢山いるみたいです。

私の中には未だに夏合宿の際に稽古を終えた、その道着のまま一緒に川に飛び込み、その川の水の冷たさに稽古の疲れを癒した先生、ランニング競争で最終ランナーとして一緒に突っ掛けサンダルを履いた私たちが、走り辛い思いをしながら互いに負けじと一生懸命ゴールを目指した先生、朝のランニングで長い列を成し先生が先頭、私がしんがり勤めて走り続け、1人がやっと通る事の出来る畦道で突き当たりに行き止まり、一列旋回し今度は私が先頭に立って戻ることになった時の先生、幾人もの先生が今も存在しています。

そして一番大切に思う先生の存在は先生から頂いた言葉です。

夏合宿に呼ばれる1年前に福岡の講習会で先生にお会いした後に、私の事を先生はお会いする人毎に紹介して頂くのですが、それは決まって私の事を「この方は、将来武道の天才に成る人です。」と相手が政治家でも教育者でも誰彼構わず、毎回同じ紹介を繰り返されておりました。その度に私は何と云うこっ恥ずかしい紹介をして頂くのかと思っておりました。私自身は現在でも天才でも何でも無く唯、一生懸命稽古で精進を重ねて行くのがやっとの人間です。それを天才などと紹介されては…。

しかしながら私が仏蘭西にて和道流責任者として空手を指導し始めてから、こちらの空手家の武道に関する知識の豊富さ、国柄による指導方法と言葉の違いなどで私の指導法に大きな壁を感じ、これからのヨーロッパで指導を続けるのは大変で、どうしようかと思った時にどう云う訳か先生の言葉を思い出しました。

「そうか私はまだまだ天才には程遠いので、天才と呼ばれるように少しずつ努力をしていけばいいのだ。」と考え始めたら、今まで思いつかなかった指導法や技の使い方が少しずつ頭に浮かび始めるようになって来ました。

先生には意味があってその様な言葉を選ばれてかどうかは分かりませんが、今の私には誠に大切な意味となっています。

先生は、私だけでは無く、先生とお会いした人、それぞれにその様な言葉を授けたのではないのでしょうか。それはお釈迦様や誰か偉い人が言った言葉のように難しい言葉では無く、誰にでも理解できる簡単な言葉、時にはその人をけなす様な言葉であったり、先生が何気なく言った言葉の中に隠れていて何かの拍子に「あっ」と思った瞬間に、そうであったかと思出すような言葉であったと思います。

それは先生から頂いた言葉の魂のようなもので、その言霊は種子として先生にお会いした人々の心の中に潜み、今、各人の中で芽を出し始めようとしているのではないかと思います。そして先生自身は余りにも多くの人々に魂の言葉を授けられたので、実体の御言葉はお隠れに成りましたが、その響きは多くの人々の心の中に存在しているのだと思います。私自身は先生から頂いた言霊の種子が今芽を出し始めたばかりなので、これからは大きな樹になる様に大切に育て、何時しか先生の様に他の人に種子を分け与えられる様に成ればと精進する所存です。

それから先生と一緒に稽古をする約束を致しました。

しかし仏蘭西と佐賀は距離も遠くまだ約束を果たせていません。

今度私が佐賀に行く時に、先生の道場で稽古をさせて頂きたいと思っておりますので、何卒御許可願います事宜しくお願い申し上げます。

ご生前のご厚情に深く感謝すると共に、故人のご功績を偲び、謹んで大塚家一同哀悼の意を表します。

草々



平成20年3月25日  
仏蘭西国モンペリエにて

和道流空手道連盟

大塚和孝





古賀先生へ

先生、調子はいかがですが？ きっと会えないだろうと思い、手紙を書いています。もう長い間お会いしてないので、先生の具合が悪いという事実を受け入れられないのが正直なところ。元気な先生しか見たことがないので、先生と出会ったのはちょうど5年前、致遠館に入学する直前でした。あの日偶然(いや必然?)先生が車で私達親子の目の前を通り過ぎたことが、まだまだ短い私の人生をカラフルに彩っていきけるきっかけでした。

あの日、先生とお話して、私は先生に心の中を見透かされている気がして、怖かったのを覚えています。そのくらい先生にはオーラがあったんですね。だけど...先生は可愛い人ですね。素直に抱きしめてくれたり、一生懸命話を聞いてくれたり、イタリア留学中に先生から送られてきた自筆の手紙には、嬉しくて涙が出ました。怖い先生から、いつの間にかLOVELYな古賀先生に私の中では変わっていました。先生のこと大好きです。毎日道場のことを考えない日はありません。早く先生に会いたいです。

先生、私、道場に通って本当に良かったです！！ 嫌いな人なんて一人もいません。本当に、素敵な人ばかりです。今でもよく連絡を取り合います。そんな皆の輝く部分を引き出してくれるのが道場だと思っています。私も先生のような、器の大きな人間になりたいです。先生のようなキラキラした人になりたいです。先生のような人の役に立てる人になりたいです。先生のように熱い人になりたいです。

先生、元気出して下さいね!!! 世界中にいる先生の教え子たちみんな、先生がゆらゆらしないように、支えていますよ。先生がもう少し元気がならないと、お見舞いにさえ行けないんです。早く先生の笑顔が見たいです。先生、先生の痛さ、苦しさが分かってあげられなくてごめんなさい。先生、諦めないで下さいね。絶対大丈夫ですよ!!! 私達皆がついてますからね!!!!!!

先生、私はもうすぐ二十歳になります。未熟だけど、成人です。先生とお酒も飲めるし、道場の飲み会にも参加できるんですよ。まだ先生に相談したいことがたくさんあるんです!! 私には先生が必要です。いや、私達ですね。

先生、まとまらない文章で、しかも長くて読んで疲れてしまったかもしれませんがね。でも最後まで読んでくれてありがとうございます。

先生の元気な姿と可愛い笑顔に会える日を心待ちにしています。

2008/02/16 寿美より



## 協力者一覧

### 正会員

相川 満雄	勝部 美樹
浅川 達夫	加藤 次男
市原 次郎	唐沢 利夫
井上 謙	川崎 稔
岩谷 トモ子	北島 恭一
植田 和実	北原 壽豊
植田 伸子	草場 弥生
植田 寛	栗林 正則
江原 道郎	黒岩 耕
大野 博之	甲本 洋子
小笠原 平八郎	古賀 和夫
加々良 エミ	

### 団体会員

佐賀新聞社  
満岡内科消化器科医院

### 学生会員

片山 ゆう子  
田代 英大  
樋口 七菜

### 購読会員

岡本 明久  
仲山 徳隆  
山崎 弥生

### 維持会員

今泉 孝昭	田中 裕子
小寺 幸夫	中島 元昭
小林 敏孝	久垣 カ也

### 寄付

●一般寄付	●ミャンマー教育基金
高祖 しづの	二十日会
大野 寿子	中尾 裕明
馬郡 有子	黒田 雪子
平野 喜幸	

### 書き損じはがき・古切手 ...他

富野ともえ	円城寺久好
倉富博美	佐賀県国際交流協会
大島病院 ソーシャルワークー室	麻生美矢子
石井訓志	与賀田裕子
八田康博	磯部芳子
土井敏弘	真如苑佐賀支部
安心院晶子	杠好秋
石塚雅子	西村一守
原田陽子	中溝澄子
NHK佐賀放送局アナウンス部	龍千秋
佐賀市立中川副小学校	金山幸恵
田原貢	

### タイクーキャオ高校

東 勇太郎	前田 英彦
梅崎 美佐子	松林 久美子
円城寺 久好	峰松 登美子
栗林 祐子	宮原 弘行
高祖 しづの	森田 由香
古賀 信子	安川 義巳
里中 長治	横尾 美里
尊田 百合子	吉井 英隆
谷本 静史	
長澤 京子	
西村 正信	
萩原 喜代子	
林 礼	
林口 多江子	

### タイクーキャオ中学

東 勇太郎	大野 圭子	小林 敏孝	中国 めぐみ	植 美穂子
阿部 尚子	大原 侠	佐藤 隆之	永田 康子	松尾 邦彦
阿部 礼子	小野 悦子	佐藤 さち子	中村 裕英	松瀬 直美
石井 義守	小野 康子	佐藤 弘子	南里 玲子	豆田 美穂子
井上 祥子	片淵 健士	志岐 洋子	新田 一雄	武藤 鼓
岩永 公代	門松 寛倫	志水 愛子	野口 智代	森 美由紀
上田 美智子	亀井 初美	杉本 奈巳	野村 久子	森永 勝馬
植月 あつこ	蒲生 正裕	高島 美佐子	馬場 龍之介	山口 葉子
梅崎 光行	川原田 勝子	田中 暁美	引地 玲子	山田 涉
江頭 美智子	北村 尚道	田久保 克明	樋口 靖子	山田 利明
江口 典子	倉富 博美	寺井 勝雄	平野 京子	吉井 学
江口 陽子	高祖 しづの	中島 文子	福井 文一郎	吉田 純子
円城寺 久好	小園 沢馬		福本 淑子	
大島 佐江子	小園 文子		藤 雅仁	

### タイボーゲウ校

東 勇太郎	中島 俊子	宮崎 ミチ子
石橋 弘子	成尾 雅貴	宮地 大治
井上 弘子	原田 典子	宮嶋 トミエ
奥園 稔	福井 文一郎	山口 勝矢
岸川 敬	福田 文子	山口 ハツエ
岸川 尚美	寶泉 正美	山下 陽子
北島 起與子	眞崎 健次郎	山田 房子
北原 壽豊	松尾 成子	横田 友那
古賀 信子	松尾 大輔	吉田 純子
小園 沢馬	松尾 隆弘	
近藤 剛	松瀬 直美	
坂井 徳子	松林 久美子	
佐々木 サキ子	豆田 美穂子	
田中 正子		

※2008年3月～5月末日まで

●順不同で掲載させていただいております。

●大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

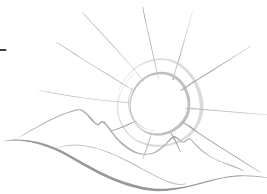
●箏友会からチャリティコンサートの入場料を寄付していただきました。●文化琴を愉しみながら広めていこうとする箏友会(そうゆうかい、代表 古賀真理子さん)が1月20日(日)、ミャンマーの子どもの教育環境を改善するためにチャリティコンサートを開催し、その入場料全額15万円をミャンマー教育基金として寄付いただきました。当日のコンサートは、伝統的な琴の名曲から身近なポピュラー曲まで演奏され、和やかな素敵なコンサートでした。ありがとうございました。●福岡フレンズライオンズクラブからミャンマー奨学金に寄付していただきました。●2月27日新しく福岡に誕生した「福岡フレンズライオンズクラブ」(会長:向井健次氏)は設立記念事業として、ミャンマー奨学金に10万円を寄贈していただきました。ありがとうございました。



# 8~10月のお知らせ

## ●日韓青年交流2008「新・かちがらす計画」交流会参加のご案内

韓国と日本の青年が交流をもとに世界の未来を考え語り合うプログラムです。地球市民の会の活動の起源ともいうべき「かちがらす計画」を新しい視点で復活です。日本語弁論祭 8月9日(土)午後13:30~ 佐賀市歴史民俗館(参加費無料)弁論祭終了後、さよなら懇親会をおこないます。17:00~バーベキュー(会費2000円程度)お盆前の楽しい交流です。



## ●古賀英語道場ミュージカル「いのちのまつり」

~日本語バージョン~公演! 古賀先生追悼公演です!!  
◆とき/8月17日(日)午後 ◆ところ/ステージ マロ  
<お問い合わせは古賀道場へお気軽にどうぞ!>

## ●会員の「つながってる」つどい

会員のつどいを実施します。  
8月23日土曜日 14:00~16:00  
実施内容等はホームページでチェックしてください。

## ●JICA委託ミャンマー事業終了報告会

JICAの委託事業として実施していましたミャンマーでの「循環型共生社会の創造」事業の期間満了による事後報告会を北九州八幡区のJICA九州で実施します。  
日程は9月5日金曜日午後。時間はまだ決まっておりません。  
詳細は事務局にお問合せください。(ホームページ、メールでもご案内します)

## ●ミャンマースタディーツアー2008

9月4日~12日  
今回のテーマはインレー湖を中心に水とともに生きる人々と環境、山岳少数民族の生活に触れるというテーマです。地球市民の会の活動地域の視察をしながら、普通では体験できないツアーです。参加費は25万円(非会員は27万円)詳細は事務局にお問合せください。(ホームページ、メールでもご案内します)

## ●第4回夏タマテ箱開催

自然体験を満喫!!今年も韓国の方との国際交流!!  
ホームステイも出来るよ★8月5~9日



## ●ミャンマー写真展「平和と鎮魂の祈り」

10月7日~12日まで、写真家 谷山茂氏のミャンマー少数民族の写真展を開催します。12日はイベントを実施します。テーマは「ミャンマー少数民族」を通し、ビルマ戦役で亡くなった郷土の方々のことを思い、平和について考えます。会員の皆様への詳細は後日チラシを郵送します。



スタッフの  
ひとこと

## 私が知っているタケちゃんの秘密?

地球市民の会

古賀英語道場・空手道場

夢の学校をつくる会

- 大野博之** あまり表面に苦悩を出さない方とされていました。しかし、「アンタだけの話ばってん・・・」といながら個別に誰にでも打ち明け話をされていました。これは誰にも言えない!と緊張していたのは聞いた本人だけでした。
- 畑 恵子** 私はTPA初出勤の日、いきなり古賀家にお泊りでした。古賀先生も「こんなのはお前が初めてだ」と。夜は山口理事も一緒に、わけも分からぬまま晩酌に付き合わせていただき、とてもディープなスタートでした。
- 内山真理子** 古賀先生に一度も会ったことがない私は、色々な人から伝え聞いた分古賀先生のイメージを作っています。でも、その古賀先生のイメージも、実際の古賀先生には全く及ばないだろうな・・・と思っています。
- 西村尚子** いつも前向き、いつも新しいことを考えておられました。大胆なお且つ繊細な方。体調を崩されてからも“道場に行く元気になる!”と、最後まで指導の場に立ちとられていました。多くの学びを与えられました。
- 納富ハヤ子** 24~5年前に古賀さんが脂肪肝で入院したとき、シーツ交換をしていたら、後ろから“かんちよーう!”とやられたのが古賀さんとの長ーい縁のはじまりでした。
- 落合精一** ミュージカル「いのちのまつり」の父兄説明会のとき。“まつり”と“フェスティバル”は絶対に別ものです、と言い張った私を「ご父兄の皆さんは学識豊かな方々なんだから...偉そうに言っちゃいかな」とお叱りを受けました。それから4ヵ月後のステージ本番の時になって、4ヶ月間ずっと“まつり”と“フェスティバル”についてご研究されていたのが分かりました...真の学者でいらっしゃいました。
- 古賀洋子** 神戸大学に入院した日のメール「無事ホテルにチェックイン。夕飯は近くのメシ屋を5軒調査した結果、牛肉卵丼380円。翌朝は違う店で割引きの親子丼420円。やっぱり前の日の牛肉卵丼が良かった。味噌汁付きで380円は激安だった!」と、一生、1,000円以下には厳しい人でしたよ〜(笑)
- 山下春美** 三姉妹の末っ子の私は、「お兄さん」の存在に強く憧れてました。姉(洋子さん)の結婚が決まり、いよいよご挨拶に来られる日、「私にもお兄さんができる?」とわくわく、どきどきで待っていた私の目に飛込んできたのは、頂点が尖った坊主頭で仁王立ちした武夫先生。衝撃的でした。でも、初めてフランス料理を食べさせてくれたのも武夫先生でした。
- 古賀大之** 武夫先生は皆さんお馴染みの坊主頭ですが、実は人を坊主にするのをとても好んでおられました。私も小学生の時に被害に合いました。毎日バリカン片手に追っかけられ、最後には捕まり無残にも丸く頭を刈られ、その日は悲しくて枕をビショリ濡らして寝た記憶があります。私の推測ですが、他にも被害に合った人はたくさんいると思われます(笑)今でも、悲しい思い出です。
- 青柳達也** 出会ったのは5歳のとき。「お前は天才だー」とおだてられて古賀英語道場に通いはじめてからの思い出はありすぎます・・・

- 相良伸武** 夢の学校をつくる会が初めて取り組んだ事業「土よつタマテ箱」。子ども達は毎回の共学に、驚きと興奮で応えていた。その子ども達に混じり、いつも一緒に楽しんでいた古賀先生。密かにおおおかしら法被を作るなど、子ども達以上に楽しんでたかも。
- 吉村 薫** ある空手大会での出来事!! ホテルの朝食で余ったパンを子ども達のために持ち帰ろうとしたら古賀先生からダメサイン?それでも、こっそり持ち帰り試合場へ・・・なんと一番にパクついていたのはタケちゃんだった。
- 秦 智美** 大学四年で夢学と関わらせていただくようになり、古賀先生と出会い...二年間でしたが、その影響力は私の人生も変えるほど(笑)お呼び出しがかかる時は「今度は何だろー」とドキドキ。それが私には大役すぎても、「古賀先生がここまで言われるなら」と引き受けてしまうほど魅力ある方でした。

## 地球市民ネットワーク

- 北海道地球市民の会  
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長/阿部功 事務局長/新保知博  
TEL: FAX: 0133-74-1296
- 地球市民の会ふくしま  
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1  
榊石黒  
会長/事務局担当 石黒秀司  
TEL: 024-959-6426  
FAX: 024-959-6577
- 地球市民の会東京  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
会長/有澤正典 事務局長/青木高広  
TEL: 03-3662-0331  
FAX: 03-3662-0400  
E-Mail: aoki@nun.co.jp
- 地球市民ACTかながわ  
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行  
TEL: FAX: 045-622-9661  
E-Mail: port@tpak.org
- 地球市民の会ぎふ  
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1  
竹花園内  
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子  
TEL: 058-391-5415  
FAX: 058-391-8600
- 地球市民みえの会  
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F  
津市市民活動センター内  
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信  
TEL: 059-226-5700  
FAX: 059-224-8911  
E-Mail: miemiemie21@hotmail.com
- 地球市民の会京都  
〒605-0873 京都市東山区下島町484  
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴
- 神戸有頂天倶楽部  
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3  
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治
- 愛媛地球市民の会  
〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640  
はばたき授産園内  
会長/篠崎和夫 事務局担当/丹生谷宗久  
TEL: 089-963-3772  
FAX: 089-963-3795
- 北九州地球市民の会  
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長/河野一郎 事務局担当/大山研規  
TEL: 093-521-8181  
FAX: 093-551-2296
- 地球市民の会福岡  
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
榊増屋内  
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿  
TEL: 092-801-5888  
FAX: 092-801-5789
- (特活)コミネット協会  
〒861-8039 熊本市市嶺南2丁目5-31  
会長/山口久臣 事務局担当/富田、田中  
TEL: FAX: 096-387-7139
- 古賀英語・空手道場  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-25-2295  
FAX: 0952-26-4922
- 夢の学校をつくる会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-22-6262  
FAX: 0952-26-4922



発行/特定非営利活動法人 地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ: http://tpa.nk-i.net  
E-mail: office@tpa.nk-i.net  
TEL: 0952-24-3334 FAX: 0952-24-7321

ネットワーク・テラ 夏号 VOL. 131

発行日/2008年8月1日  
発行人/佐藤昭二  
編集人/地球市民の会 事務局  
印刷/榊サガプリンティング